

2013.3.21



# 医療教育開発センター ニューズレター

徳島大学大学院  
ヘルスバイオサイエンス研究部  
医療教育開発センター

## 1 巻頭言

2 臨床により近い  
シミュレーション教育を目指して  
—高機能シミュレーター導入—

3 大学院教育クラスター

4 文部科学省平成23年度採択  
(平成23-25年度実施)  
頭脳循環を加速する若手研究者  
戦略的海外派遣プログラム

5 蔵本キャンパスでともに学ぶ  
—基礎的汎用能力の育成—

## 1 巻頭言



### 「Shows how」と「Does」の教育

医療教育開発センター長 赤池 雅史

医学部の大学教育研究特別整備費「総合的医療シミュレーション教育に対応するための高度医療技術トレーニング設備の整備」により進めておりましたスキルスラボ改修が、今年度無事完了しました。本号で紹介しておりますように、

各種トレーニングに対応できるようになっておりますので、ぜひご利用ください。また、3月には今回初めての試みとして模擬患者参加型教育検討会を開催し、蔵本地区で行われている模擬患者さんを活用した医療教育の情報共有を行いました。新人模擬患者の育成も順調に進んでおり、学部・大学病院を問わず蔵本地区全体のコミュニケーション教育にご活用いただきたいと思います。

このようなシミュレーション教育は、米国のDr.Millerが提唱した能力ピラミッドの中で「Shows how」、すなわち「どのようにするかを知っている」というレベルの養成に用いられ、その一般的な評価法としてOSCEが行われています。卒前医療教育では、診療現場での参加型実習が積極的に行われるようになり、それとともに学生の能力の低さが指摘されることが多くなった感があります。しかしながら、診療現場で求められ評価される能力は、「Shows how」の一段階上の「Does」のレベルであり、「Does」のレベルにはプロフェッショナリズムを含めアートの領域が深く関与していますので、これをシミュレーション教育のみで育成することやOSCEで評価することは困難です。今後は診療現場でのon-the-job trainingの手法とその評価方法の開発によって「Does」の教育を進めるとともに、診療現場で求められる「Does」の能力について、まず「Shows how」レベルまでいかに教育するかといった両者の連携が重要になると考えております。大学院教育は、まさに「Does」の教育そのものですので、学部教育と大学院教育の両者において医療系教育組織の連携支援を行う医療教育開発センターとしては、「Shows how」と「Does」の教育を職種連携教育や共通性の高い医療教育として展開していきたいと考えております。

医療教育開発センターは平成25年度に開設10周年を迎えます。今後とも、皆様のご指導・ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

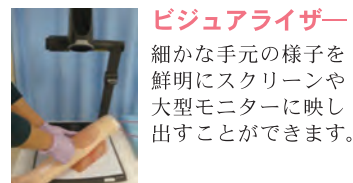
## 2 臨床により近いシミュレーション教育を目指して—高機能シミュレーター導入—

### ■スキルス・ラボ改修

総合的シミュレーション教育に対応するため、高度医療技術トレーニング設備の整備が行われました。この設備充実に伴い、これまでできなかった高度な医療技術のトレーニングが可能となります。

#### 摘出動物臓器によるWet Laboの実現

- ・動物臓器保管庫(冷凍冷蔵庫)
- ・卓上超音波洗浄機
- ・オートクレーブ



#### ビジュアライザー

細かな手元の様子を鮮明にスクリーンや大型モニターに映し出すことができます。



#### ハーモニック scalpel II

超音波凝固切開装置を用いて実際の手術により近い訓練ができます。

#### 照明灯LFX3-D-BKN



#### スカイルックス クローバースタンド

LED照明灯を2種導入しました。手元を明るく照らし、トレーニングしやすくなりました。



Wet Labo実施可能に床を改修し、手術関連機材を充実させました。また、準備室を設置し、Wet Laboの安全な実施を可能にしています。

#### バーチャルシミュレーター

注:シミュレーターの取扱いに熟知した指導者のもとで使用できます



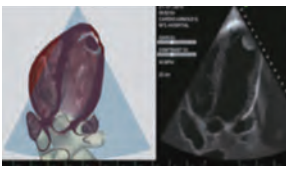
#### 腹腔鏡下手術バーチャルシミュレーター「Lap Mentor™」

実際の手術に近いバーチャル体験が可能です。手術手技だけでなく、解剖の理解にも役立ちます。



#### 心エコートレーニングシミュレーターバイメディックス「VIMEDIX™」

経胸壁と経食道のプロープを有し、心臓における超音波画像診断に必要な解剖学・病理学的知識をはじめ、画像読影スキルやプロープハンドリングによるハンド・アイ・コーディネーションのトレーニングができます。

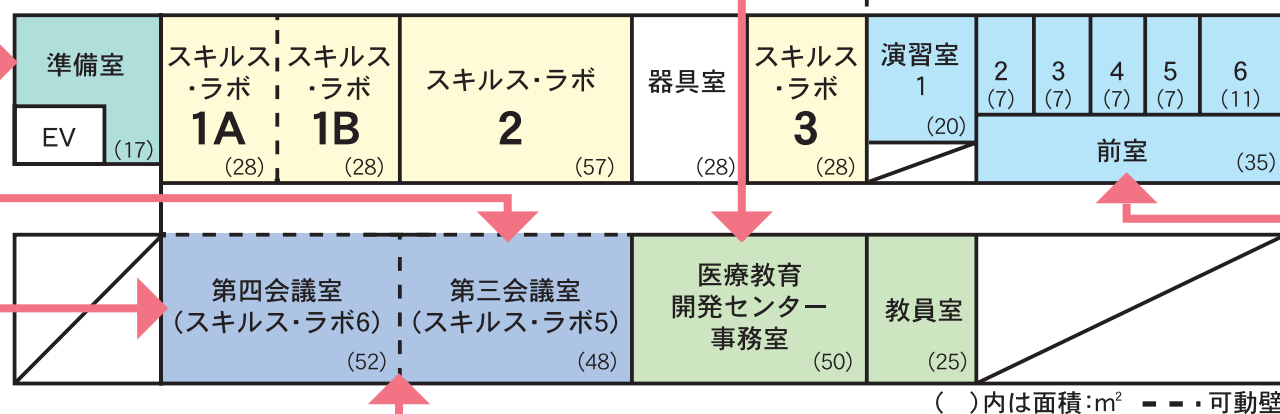


#### 血管インターベンションシミュレーショントレーナー「MENTICS VIST」

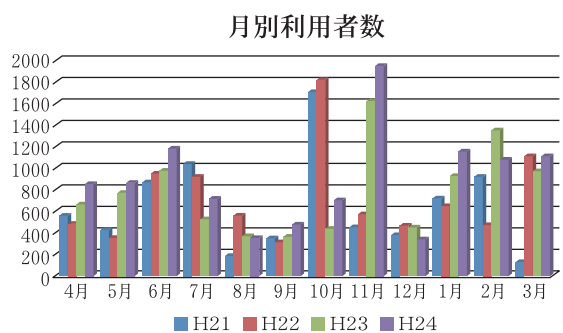
血管造影及び血管内治療のリアルなhands-onトレーニングができます。



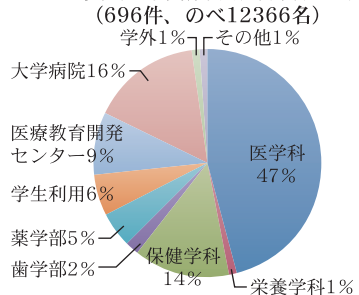
#### 医学臨床A棟1階



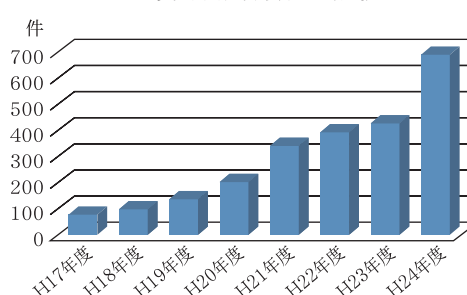
#### スキルス・ラボ利用実績



#### H24年度 所属別利用件数の割合



#### 年間利用件数の推移



#### TV(Web)会議システム

光ケーブルを施設し、テレビ会議システムを導入しました。術野映像双方向配信システムにより、メイン会場とスキルス・ラボをつなぎます。画面を見ながらの解説や指導を受けることができ、空港など学外からの参加も可能です。このシステムはひかり回線を通じて徳島県立病院ネットワークに接続されています。地域で研修する若手医師も参加、研修が可能です。



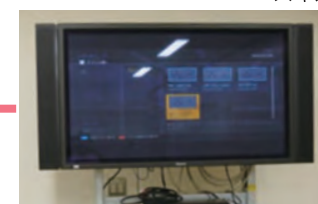
メイン会場



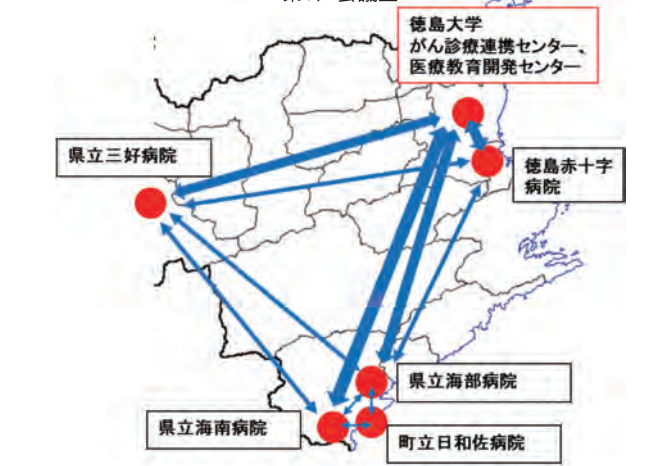
学外からの参加



スキルス・ラボ



第3,4会議室



## 3 大学院教育クラスター

《コアセミナー》6クラスター合わせて35回のコアセミナーが開催されました。

詳細は医療教育センターHP [http://www.hbs-edu.jp/center/center\\_brief.html](http://www.hbs-edu.jp/center/center_brief.html)より確認できます。

《ミニトリート》各クラスターが様々な形でミニトリートを開催し、合計177名が参加しました。

ミニトリートにおける発表賞や学会参加の援助等、66名の大学院生が支援を受けています。

クラスター	日時	場所	参加人数				計
			教職員	大学院生	学部生	外部講師	
感染・免疫	H24.11.21-22	ルネッサンスリゾートナルト	17	11	7	2	37
心・血管	H.25.1.4-5	庵治観光ホテル 海のやどり	26	9	3	1	37
肥満・糖尿病							
ストレスと栄養	H25.1.18	日亜メディカルホール	13	23	5	2	43
骨とCa	H25.2.1-2	ウェスティンホテル淡路 淡路夢舞台国際会議場	17	16	1	1	35
脳科学	H25.2.16-17	ウェスティンホテル淡路 淡路夢舞台国際会議場	12	9	3	1	25

## 4 文部科学省平成23年度採択(平成23-25年度実施) 頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム



若手研究者7名の海外派遣を支援しています。

- 黒部裕嗣(心臓血管外科分野助教)エール大学、オハイオ州立大学(米国)
- 塩田あすか(臨床栄養学分野特任助教)ミュンヘン工科大学(ドイツ)
- 楠瀬賢也(徳島大学病院循環器内科助教)クリーブランドクリニック(米国)
- 堀ノ内裕也(徳島大学病院薬剤部/医学部研究員)NIEHS/NIH(米国)
- 吉田守美子(生体情報内科学分野助教)ボストン大学(米国)
- 向井理恵(食品機能学分野助教)レディング大学(英国)
- 石澤有紀(薬理学分野助教)ロチェスター大学(米国)

平成24年12月12日(水)には、帰国した研究員を中心として第3回リサーチカンファレンスを開催しました。



## 5 蔵本キャンパスでともに学ぶー基礎的汎用能力の育成ー ●●●

### ●第2回医療教育講演会

『病院を支える人たち、そして地域で患者さんを支える人たち』

日時:平成24年9月10日(月)  
18:00~19:30

場所:長井記念ホール  
講師:福島統先生  
(東京慈恵会医科大学教育センター長)  
参加人数:225名



### ●第3回医療教育講演会

『いのちの傍らで~おとなとこども~』

日時:平成24年11月14日(水)  
18:00~19:30

場所:長井記念ホール  
講師:細谷亮太先生  
(小児科医/聖路加国際病院副院長)  
参加人数:233名



### ●2012 Tokushima Bioscience Retreat

日時:平成24年9月13日(木)~15日(土)  
場所:リゾートホテルオリビアン小豆島  
参加人数:学生22名、教員10名



### ●模擬患者参加型教育

『第2回How to医療コミュニケーション教育  
~医歯薬学における模擬患者参加型教育~』

日時:平成24年12月1日(土)  
9:00~12:00

場所:スキルス・ラボ  
講師:藤崎和彦先生  
(岐阜大学医学教育開発研究センター教授)  
参加人数:27名



### ●第6回「チーム医療入門」蔵本地区1年生WS

『チーム医療を行うために必要な能力とは』

日時:平成24年9月28日(金)  
13:00~17:00

場所:長井記念ホール、  
保健学科大講義室他  
参加人数:413名



### ●第4回Simulation医療教育Workshop in 徳島

『みんなで考えよう災害シミュレーション』

日時:平成24年10月20日(土)  
9:00~16:40

場所:スキルス・ラボ  
講師:安井清孝先生  
(福島県立医科大学災害医療総合学習センター)  
参加人数:23名



### ●第4回医療教育講演会

『災害医療の原点へ  
~兵庫県立淡路病院救急外来ビデオが語るもの~』

日時:平成25年2月6日(水)  
18:00~19:30

場所:長井記念ホール  
講師:水谷和郎先生  
(神戸百年記念病院循環器内科医長)  
参加人数:179名



### ●学会活動●

第20回日本消化器関連学会週刊(JDDW2012)(10月10日神戸)  
『医学生へのドナーアクション啓発活動の重要性』

岩田貴<sup>1,2)</sup>、島田光生<sup>2)</sup>、宇都宮徹<sup>2)</sup>  
医療教育開発センター<sup>1)</sup>、外科学<sup>2)</sup>

第74回日本臨床外科学会総会(11月29日東京)  
『最良の外科医の教育とは何か~システム、支援、フィードバックに着眼した教育~』

岩田貴<sup>1,2)</sup>、島田光生<sup>1)</sup>、栗田信浩<sup>1)</sup>、佐藤宏彦<sup>1)</sup>、森本慎也<sup>1)</sup>、吉川幸造<sup>1)</sup>、  
宮谷知彦<sup>1)</sup>、柏原秀也<sup>1)</sup>、高須千絵<sup>1)</sup>、赤池雅史<sup>2)</sup>  
医療教育開発センター<sup>1)</sup>、外科学<sup>2)</sup>

第25回日本内視鏡外科学会総会(12月8日横浜)

『システム、支援、フィードバックに注目した内視鏡下手術トレーニング』  
岩田貴<sup>1,2)</sup>、島田光生<sup>1)</sup>、栗田信浩<sup>1)</sup>、佐藤宏彦<sup>1)</sup>、森本慎也<sup>1)</sup>、吉川幸造<sup>1)</sup>、  
宮谷知彦<sup>1)</sup>、柏原秀也<sup>1)</sup>、高須千絵<sup>1)</sup>、松本規子<sup>1)</sup>、赤池雅史<sup>2)</sup>  
医療教育開発センター<sup>1)</sup>、外科学<sup>2)</sup>

全学FD大学教育カンファレンス(12月26日)

『スキルス・ラボを活用した高校生医学体験学習の取り組み』  
福富美紀<sup>1)</sup>、岩田貴<sup>1)</sup>、長宗雅美<sup>1)</sup>、石田加寿子<sup>1)</sup>、辻暁子<sup>1)</sup>、赤池雅史<sup>1)</sup>  
HBS研究部医療教育開発センター<sup>1)</sup>

第246回徳島医学会学術集会(H25年2月3日長井記念ホール)  
教授就任記念講演『医学教育Update~医学・医療における基礎的・汎用的能力の育成~』  
赤池雅史  
医療教育学、医療教育開発センター

### ●医療教育miniコラム●

Millerのスキル三角

米国のDr. Millerが1990年に提案した能力ピラミッドとその評価を示したもので、下から上に、Knows(ただ単に知っている)、Knows show(どのようにするかを知っている)、Shows how(やってみせることができる)、Does(実践できる)で構成される(Miller GE. Acad Med 1990; 65: S63-67)。CBT等の試験はKnowsやKnows show、OSCEはShows howの評価であり、より本物の評価であるDoesの評価には不向きである。英国ではDoesの評価としてポートフォリオ評価が行われている。プロフェッショナルリズムを含め、医療・医学のアートの領域はDoesの能力との関係が深い。

### ●お知らせ●

●2013 Tokushima Bioscience Retreat  
日時:平成25年9月19日(木)~20日(金)

●第7回「チーム医療入門」蔵本地区1年生WS  
日時:平成25年9月30日(月)13:00~17:00